



## 「言葉」が運ぶもの

副校長 澤 勉

新しき 年の初めに 豊の年 しるすとならし 雪の降れるは  
(新しい年の初めに、今年の豊かな実りの予兆なのでしょう。雪が降っているのは。)

万葉集 17 卷 葛井諸会

先日の記録的な寒波の朝、通勤途中の外気温の表示は-4度を示しておりました。学校の水道も凍結しており、寒さが緩んだ10時過ぎの昇降口の蛇口から、水が噴き出すという小さな事件もありました。そんな冷え込む朝にも、大勢の保護者や地域の皆様方が通学路の安全確保をさせていただいております。おかげさまで、子どもたちは怪我もなく安全に登校することができました。感謝申し上げます。

さて、文頭に挙げた短歌は、日本最古の和歌集である万葉集に収められたもので、御所の雪かきをした後の酒宴で詠まれたものとされています。万葉集には「国誉め」の歌が数多くあり、第1巻第1首の「籠(こ)もよ み籠持ち 堀串(ふくし)もよ み堀串持ち…」と同じように、この歌も、国誉め(国ほめ)の側面をもっているように思えます。

ところで、「国誉め」とは、自分の統治している「国」を言葉で誉めることですが、言葉で実際に誉めることを通して、その「国」の豊かさを実現していこうというものです。声に出した言葉が、現実の事象に対して何らかの影響を与えると信じられ、良い言葉を発すると良いことが起こるという「言霊信仰」に基づいています。

私が副校長になる直前には、続けて6年生を送り出してきました。授業時だけでなく、休み時間や給食時などにおいて大切にしてきたことは、やはり「言葉がけ」です。肯定的な言葉がけを教室などで絶え間なくしていくことから、子どもは自信をもつことができ、安心して自分の思いや願いを表現できるようになりました。

さらに私は、あいさつも大切にしてきました。「子どもたちがなかなかあいさつしない。」と言われる昨今ですが、私は、子どもより先にあいさつをするようにしていました。最初はスルーする子どもも多いのですが、あいさつを続けることにより、あいさつを返す子どもたちが少しずつ増えてきました。月並みですが、あいさつを交わすことから、子どもとの気持ちが通い合い、最終的にはその日の体調までわかるようになったと思います。やはりあいさつは心を通じ合うための最初の一步なのです。

寒さが続き、近隣校ではインフルエンザによる学級閉鎖等もあるようです。ご家庭におきましても、室温だけでなく加湿にもご配慮いただけるとありがたいです。地域の皆様、保護者の皆様にも温かな言葉がけもさらにしていただき、日吉台小の子どもたちを内から温めていただきますよう、よろしく願いいたします。